

モクレン科 モクレン属

コブシ(辛夷)

Magnolia kobus DC.

自生環境

山林

原産地

日本在来

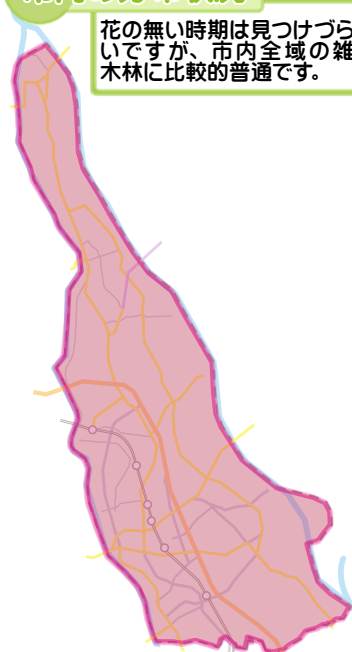
生育を脅かす要因



雑木林を構成する樹木で、比較的数字は多めです。ただここ最近伐採などにより雑木林が急速に減ってきているため、普通種だからと油断しないほうがいいかもしれません。

市内の分布状況

花の無い時期は見つけづらいですが、市内全域の雑木林に比較的普通です。



特徴

- ☆ 山林に生える落葉高木で、3～4月ごろ枝いっぱい白い花を咲かせ、野山に春の到来を告げます。古くは農作業の目安としても使われていました。名前はゴツゴツした果実を握りこぶしに見立てたものです。
- ☆ 花の直径は10cmくらいで、花びらは9枚あります。うち6枚は大きくてよく目立ちます。残り3枚は大きな花びらの外側につきますがよく観察しないと気付かないくらい小さいものです。また花のわきに小さな緑色の葉が1枚につきまします。葉は長さ6～15cmくらいで、ちぎるととても良い香りがします。
- ☆ 冬芽は2枚の皮に包まれていて、花芽と葉芽で見た目がずいぶん異なります。花芽は大きくて先がとがり、長い毛がびっしりと生えてさわるとふわふわしています。葉芽は小さく、表面は毛に覆われるもののふわふわ感はありません。

果実が面白い

コブシの果実は「集合果」という形態。いくつもの果実が棒状に集まって、ひとつの大きな果実のようになっています。その結果、ゴツゴツとした形になり、まるで握りこぶしのように見えます。この果実は成熟すると果皮(果実の皮)が開き、中から朱色の種子が顔を出します。この種子は珠柄と呼ばれる細い糸で果実本体につながっており、引くと糸のようなものがびよーんと伸びます。



枝いっぱいに白い花を咲かせる



花の下に1枚の小さな葉がつく



果実は握りこぶしのようゴツゴツ



秋になると割れて、中から朱色の種子が顔を出す

葉を揉むと、強い香りがする



花芽は柔らかくて長い毛に覆われてふわふわ

葉芽も毛が生えているが、花芽ほどふわふわして見えない



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

